

年間活動報告

2016 年度(2016 年 7 月~2017 年 6 月)



一般社団法人あいあいネット
(いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク)
〒231-0003 横浜市中区北仲通 3-33 関内フューチャーセンター内
Tel 050-3754-5970 URL: <http://www.i-i-net.org/>

1. いりあい交流

2016年度の「いりあい交流」は、前年度までの取り組みに引き続き、以下の活動を展開することができました。

<インドネシアでの活動>

昨年度に引き続き、認定NPO法人「共存の森ネットワーク」と共同で、インドネシアにおける「聞き書き」プログラムを実施しました。具体的には、2016年7月に西ジャワ州ボゴールのコルニタ高校で聞き書き研修を実施した他、中スラウェシ州での聞き書き成果報告会に参加、さらに中カリマンタン州パラカラヤ市政府を訪問し、聞き書きプログラムでの連携の可能性を話し合いました。また、日本とインドネシアでの聞き書きの取り組みを紹介し、作品を収録した本をインドネシア語で出版しました(2017年12月)。

<日本国内での活動>

今年度も引き続き、「火野山ひろば」および大学と共同し、滋賀県の湖北・湖西地方で焼畑復活を軸とした森林再生・地域再生を目指した活動に、共催者として参加しました。また、「第1回焼畑フォーラム：椎葉で語りあう焼畑の未来」(2017年3月)を共催しました。

2. 西部バリ国立公園プロジェクト

2012年12月から始まったJICA草の根技術協力プロジェクトの第二フェーズ「自然と人間の共存を目指し、公園現場事務所を拠点とした、コミュニティ・国立公園協働活動促進手法の深化と普及」は、2016年11月に4年の期間を終えました。西部バリ国立公園周辺の6つの村すべてで、国立公園職員による寄り添い活動を通じて、住民による「自然と共生した」生計向上活動が始まっています。特にギリマヌク村では村役場と住民の協働でのゴミ処理活動が、ブリンビンサリ村では同様に村役場と住民グループによって、カンムリシロムクの飼育下繁殖を通じた観光振興活動が行われています。また一番最初に住民主体のカンムリシロムク飼育下繁殖が始まったスンプルクランポック村では、水資源管理やトレッキングガイド等、さまざまな住民グループ活動が広がっています。さらに住民との協働を促進するコミュニティ・ファシリテーションの手法を、公園職員同士の経験交流や学びあいを通じて他の国立公園に広げようとする「ピアサポート」の活動も、東ジャワのメルブティリ国立公園やバルラン国立公園を対象に行われています。

JICA草の根技術協力プロジェクトとしての活動は一区切りとなりましたが、あいあいネットと西部バリ国立公園との協定による活動は継続しており、2017年4月からは同地域を対象とした地球環境基金(独立行政法人環境再生保全機構)の助成が「カンムリシロムク翔び交う里」を目指すインドネシア・バリ島西部の地元住民・行政・企業の協働による、自然と経済の共生した地域づくりプロジェクトとして始まりました。これは西部バリ国立公園とその周辺地域において、「カンムリシロムクの野生復帰」をテコにして、多様な関係者の協働による観光を通じた地域振興を目指すものです。

3. 地域に学ぶ研修事業

JICA 横浜の課題別研修「住民主体のコミュニティ開発」は 2016 年 7 月 11 日～8 月 5 日に実施され、8 か国 12 名が参加しました。フィールドワーク先として山梨県上野原市西原にお邪魔して、地域の方々のお話をじっくり聴く機会を作らせていただきました。また横浜市内では平安町町会と千丸台地区社協を訪問しました。

これまで長年実施してきた「住民主体のコミュニティ開発」研修ですが、帰国した研修員へのその後のフォローアップという形で、インドネシア・西部バリ国立公園をフィールドとした JICA 横浜のフォローアップ研修を 2017 年 2 月に初めて実施しました。2012 年～2015 年に実施した研修の参加者で、カメルーン、タンザニア、スーダン、インドネシア、スリランカ、バヌアツ、コロンビアの 7 カ国から 7 名が参加しました。西部バリ国立公園での「コミュニティ・ファシリテーション」の事例を見聞きし、公園職員とも交流する中で、各自が研修後に自国の現場で行ってきた活動を振り返り、成果と課題を明らかにすることができました。また受け入れた公園職員の側にとっても、他国で同じようにコミュニティと活動する仲間を知ることができ、刺激になりました。

4. その他の活動と組織・広報

- 前年度から継続して協力する JICA の技術協力プロジェクト「日本インドネシア REDD + 実施メカニズム構築」にファシリテーションの専門家として理事・山田理恵を派遣しました。
- 地球環境基金の人材育成研修や横浜 NGO ネットワークの研修に講師として役員を派遣しました。
- 前年に引き続き、「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議（ESD-J）に当会役員の壽賀一仁が理事として参加しました。
- 横浜 NGO ネットワーク（YNN）に、当会役員の山田理恵が理事として参加しました。
- 年次報告書を発行し、ホームページの定期的な更新や Facebook での広報も行いました。
- 事務局職員として週 3 回勤務してくれた福崎令奈さんが 2016 年 12 月に退職し、あいあいネット事務局は非常勤で役員が担う体制となりました。

以上